

第2回鏡野町総合教育会議 議事録

- 1 日 時 平成29年12月21日（木曜日）
午前10時10分開会 午前11時45分閉会
- 2 会 場 ペスタロッヂ館 特別会議室
- 3 出席者 町長 山崎 親男
教育長 年岡 康雄
教育長職務代理 石原 昭和
教育委員 定久 正義
教育委員 佐古 庸二
教育委員 小椋 潤二
教育委員 宗川 万喜子

（事務局関係）

総合政策室長 武本 学
学校教育課長 宗森 妙子
生涯学習課長 和田 敦志
総合政策室主事補 安東 亜佐芳

- 4 協議事項 （1）平成30年度当初予算について
（2）その他

- 5 会議の経過及び発言

○開会

○山崎町長あいさつ

○年岡教育長あいさつ

○協議事項

議事録署名については、町長と教育長が行うこととなった。

（1）平成30年度当初予算について（意見交換）

武本室長 それでは協議事項（1）の平成30年度当初予算について、教育委員会部局、学校教育課、生涯学習課において、来年度の予算に向けて、ここは是非とも町にお願いしたいということなど含めてご意見をいただければと思います。

宗森課長 まず学校教育課から、例年通りのものはお願いをしたい。そして、来年度から小学校及び中学校の先生及びパソコン教室のパソコンを、ライセンスが切

れるので、全部を更新しなければならない。購入するとかなりの額になるので、リース契約を考えているが、小学校は先生が 132 台、パソコン室が 145 台とかなりの数になる。それに周辺機器等入れると小学校で月額リース料が税込みで 177 万くらいになる。中学校も同様に、先生が 43 台、パソコン室 40 台で、50 万くらいになる。

武本室長 一度、リースの場合と一括で購入する場合を比較したものを作成し、総務課と予算査定する前に事前に協議していただいた方がいいと思う。例えば、電源立地地域対策交付金が充当できるようなら、それを活用する方法もある。

山崎町長 客観的にどっちが得か、損するか、メンテナンス、修繕とか廃棄とか、そういうリスクも含めて検討した結果、リースの方がいいだろう、あるいは購入した方がいいだろうという、可能な限り比較検討する材料を。財源というのは考えているか。

宗森課長 財源は一般財源。あともうひとつ、これは新規事業で却下されたが、上齋原の大型のマイクロバスを通学バスとして使っているが、できれば中型マイクロバスを購入したい。

武本室長 新規事業で却下した理由は、現在上齋原は小中幼稚園も含めて通学用のマイクロバスを、大型車 1 台で運転委託していたが、中学校が統合したということで実際に乗る子どもたちの数が減ってきた。もう大型は必要ないからもう少しコンパクトな車に変更したらということであったが、現状でまだ利用可能、あえて来年度に更新をする必要はないのではないかとということ。

宗森課長 今は、冬場の間は上齋原振興公社ができないということで日交バスに運転を委託している。しかし、来年度から日交バスが受けないということで上齋原振興公社に年間委託する。そうすると上齋原振興公社も大バスよりはマイクロバスの方が運転手を手配しやすいということがあって振興公社の方からもお願いをされたこと。新規事業で却下されたものを当初で上げるのはどうかという総務課の指示もあり、ぜひお願いしたい。

山崎町長 管理費とか含めた経費にもよる。

武本室長 要は大きいバスより小さいバスの方が運転しやすいというだけでは更新する理由としたら乏しい。

山崎町長 他には。

年岡教育長 新学習指導要領に基づいて平成 32 年より小学校の英語の教科がスタートする。30 年度より移行期間ということで、今 3、4 年生が 35 時間あるところが 50 時間というかたちの中で教科ではないが英語学習ということで時間数がのびて、これが 32 年教科にされることになる。そうすると、8 小学校の児童が中学校 1 年に進学した段階で子どもたちの習得の度合いが違う可能性がある。中学校は進学したときに同じ状況まで学力を定着させてほしいという強い要望がある。小学校の英語学習については、できれば複式の学校において単式で英語学習させてやりたいと考えており、単式にするために講師を 1 名専任させる予算を上げさせていただきたい。大体 700 万程度になる。

武本室長 平成 30 年度からということか。

年岡教育長 30 年度から。32 年度からは英語の教科は 70 時間になる。32 年度までは総合学習的な部分で英語学習というのが 35 時間設定してあるが、これに 15 時間で 50 時間。小学校で教諭は基本的に英語を指導するかたちにできていないので専門の英語指導ができるような講師を、今選定をしかけている。基本的には 1 人で 4 校回ってもらおうという考え方で、1 校に 1 人という考え方ではない。富、上齋原、香北、香々美。奥津は単式なので。それと、小学校の教員が英語教育に対する準備をするノウハウとか、それができる教員を今探しているところで、教科化に向けての準備も指導も含めて、来年度から配置させて力を付けてやりたいと思う。これは絶対にいただかないとだめな中身なのでぜひお願いしたい。

山崎町長 70 時間というのが足りるかどうか。70 時間というのは国から言われているだけで、和気町のように特区をとられて、でも英語だけでいいのかどうかということ。その 70 時間を選択して、これをしたい、あれをやりたい、という子どもには、そういう授業をつくってやる、それがゆとりのある教育になるのではないか。

年岡教育長 英語については義務教育の教科として国が定めたから、これを市町村がしないというわけにはいかない。しかしするのだったらきちっとしたことをしてやらないと、将来中学校に行くとき、高校進学していくときにも困るし、鏡野町ができるベストなものを設定してやりたい。今でも複式の学校については算数・国語に関しては町費の講師を配置し、複式でなく単式で授業を進めさせていただいている。これのおかげで、鏡野町の子どもたちが管内でもそんなに課題があるということもないし、逆にいい成績をおさめている学校もある。校長会ともしっかり協議してやるとすればこの方法しかないということで、あとは教育委員でその体制づくりをと考えた。ぜひ、町長にご理解いただきたいと思う。人件費等の予算については全体をどんどん膨らませていくわけではなくて、必要なところに必要なものを充てるというとり方はさせていただきたいと思うのでよろしくお願いしたい。

山崎町長 わかりました。鏡野町らしさが出るような子どもを輩出する、そういう土壌づくりを基本に、魅力ある子育て環境、教育環境の整備についていろいろな教育議論をしないといけない。鏡野町の教育環境は素晴らしい教育環境だねと子どもたちが思えるようなものを作らないといけない。これからいろいろな計画を立てていく上で大事なことだと思うし、この問題は絶対に答えが出ない課題なので、少なくともこの総合教育会議の中ではみんな申し合わせて、考えていきたい。

年岡教育長 ありがとうございます。環境整備は津山市等と比較すると予算もしっかりとっていただいて、エアコン整備は小学校、中学校におきましても本当に喜ばれている。それから、学習環境ということになれば教室の中に支援を要する子どもが各教室に何人もいる。そこにしっかりと支援員を配置していただける

ことによって学級全体が落ち着く、学校全体が落ち着くから学力の定着を図れるという好循環が今まで繋がってきているので、他の町村からは鏡野町いいよねと、教員からも鏡野町で教育したいという希望が非常に多い町だと思っている。それから、興味をひかせて子どもたちが先生の顔を見ながら授業を受けられるような授業づくりの研究もしているし、実践もしているので、そういう形の中で徐々に良くなっていくと思う。

定久委員 町長が教育環境のことを言われたが、鏡野町の教育環境は以前から大変素晴らしいと言われている。そして、町の行政の支援が非常に高いということで、教員は鏡野町で勤務したいというのは多い。子どもたちの様子を見た時に、南の方の学校で聞く教室の様子と比べると、大変おとなしく、落ち着いた勉強をしていると。町内の学校によってもまたそれぞれ特色があるが、全体として今のところはいいのではないかなあと。ですから、どんどんよそから鏡野町へ移住してきてくださればありがたい。就学前教育についても本当に素晴らしい設備を持っているし、余裕も十分あるのでその中にもっともっとよそから子どもたちを呼んできていただくような政策の方に力を入れていただいて、教育環境のよさを宣伝していただければありがたいと思う。

石原職務代理 学校の教育面に対しての姿勢だとか教員の人材長期更新、こういう面では確かに十分手だてをしてもらっているが、言葉は悪いかもしれないが、町教職員自体も甘えているという面もあるのが現実だと思う。だから、働き方改革の中でサービス残業という表現がいいのかどうかかわからないが、そういうのを減らしなさいよという部分を言えば、人を増やしてもらえないのではないかと甘えている的な恰好のなかで、県教員含めてそういう部分っていうのが打ち解けなければならない話。町内に来てくださった教職員は、町の公務員として、働いていただくという中ではそういう部分も必要かとは思う。

山崎町長 決して甘えじゃないし、こういう要望があって加配教員をとというのも十分わかる。学力学習状況調査の結果が、甘えではないよという、客観的に尺度になると思う。教員は働きやすいけども学力がついてきてないと。その矛盾があればどこに問題があるのかということを検証して、さらに来年、再来年というところで、それが教育長の力であると思う。

石原職務代理 さっき教育長も言われたが、支援が必要な子どもが各クラスに何人かいると、今度は学力的な部分で言えば、やはりこれは波があると思う。小5なり中2だけを見ていいとか悪いとかいうのは判断がつきにくい気がする。ただそれから国の平均、県の平均よりどうだという比較っていうのが一概にいいのかどうか、確かに上位にいる方がベターだと思うが。

山崎町長 支援が必要な子どもがいるっていうのは、その環境は今も昔も変わってないし、鏡野町は、社会に出ても遜色のない人間をつくり出している。鏡野町の子どもは分け隔てなく生活をしていると思うが。ただそれとは分けて考えた時に、甘えた教員はいないが、そういう風なところを推し量るのに学力調査はどうなんですかというのを参考までに。

- 年岡教育長 学力学習状況調査について報告します。
- 宗森課長 これも毎年子どもは変わるので単純に比較はできないが、年度によって変動はあるが小学校国語で言うと27年度から上がってきている国語A、下がっている国語Bとかいろいろある。でも大体ならしてみますとこの3年間ではほぼ横ばい、または多少上昇という傾向はみられる。
- 年岡教育長 国もそうだが、順位っていうのがどうしても指標になると思うが、全国平均との比較が基本になる。日本の子どもたちはどのくらいの学力があるのかということを知り、その学力の平均までもっていけば鏡野町の子どもたちは、それでいいと思う。それで、ここに指標があるのは県の町村ごとの点数。
- 宗森課長 ここに順位を出したものはないが、県平均よりは上回っている。
- 年岡教育長 順位は出さない。その年々によって違うところがあって、29年度は中学校においては数学のみ。というのはやっぱり授業づくりの中で今年は数学を中心にやろうとか、今年は国語が弱いから国語を中心にやろうとか、いろいろあるので、やった年には成果が出る。
- 山崎町長 教師によるというのをよく聞くが。
- 佐古委員 合併してから若い世代が旧鏡野町の方へ出てきて、富からも私が頭に浮かべるだけでも6人程出てきて、子どもさんが2人ずつくらいはいらっしやる。若い人たちは便利な生活の方へ流れていくのかなあいうことを思いながら、富の小学校は将来どうなるのかなあというのが今一番頭の重たいところ。富が更に活気がなくなっていくかなあと。学校が無くなっていけば更に地域も活力が無くなっていくのかなあということを、地域の住民としての立場で思っている。周辺地域にも若い人たちが残る、入ってこられるというような施策は、なかなか難しいかな。移住していただけるようなことができれば。そういう若い世代が入ってきていただく施策っていうのはなかなか難しいのかな、いろいろ思っている。
- 山崎町長 高校まで医療費無料にしている自治体があるが、鏡野町はそこまでしない。義務教育の期間は十分にしよう。実際先日面接の時に、友達から子育て環境非常にいいっていうのを聞いて、寺元に家を建てたという人がいたが、教育環境がいいということ発信することも必要。自分が少しでもいいところに家を建てようと思ったら里へとか、南へ出ていく。でも我々みたいな経験をしていたら、そこは津波が来るし被害もあるから、少しでも自分が苦勞する高いところに家を建てて住むという風なところを皆さんが持てば、富も上齋も奥津も人がどんどん入ってくるのでは。
- 小椋委員 国語と算数2教科だけではなく、子どもは得意教科であったり体育が好きな子がいたり全体のことをみてもらった方がいいような気がする。あまり点数にとらわれたくないと思っている。特に上齋は少人数なので、先生と1対1くらいの授業でやっているの、人間関係がなかなか出来づらいということでも今も問題に上がっているが、人数の多いところの学校に行かせたいというような考えも持っている父兄もいる。その反対に少人数の方がいいと言って

鏡野町以外から上齋原に来る人もいたりするので、その辺はどっちがいいかというのを、地元の者は出たい、外から来る人は少人数の方がいいという、これも大きな問題。それは今も僕ら相談受けたりしたが難しいなあということしか返答できていないが、その辺も含めた協議を町長としていきたいなと思っている。

宗川委員 人間関係、そういったのを求められている保護者さんもすごく多い。子どもたちが成長していく過程にはコミュニケーションが大事で、それがこれから中学校を出て高校生、高校生になってだけではなく社会に出て役に立つ、自分たちが使える力を持つっていうところを求められている方が多く、落ち着いた中学校だけを求められてない方がおられる。子どもたち自身もタブレット機器、情報機器等の扱い、そういったものも含めて、いいことばかりを知っているのではなく悪いことも見て知って自分たちで体験していくことや、地域でいろんな方が見守りをしてくださったり授業に関わってくださったり、いろんな人と接していく場面も必要。子どもたちが一生懸命勉強するベースの強い心を持つには一番大事なのは、3歳までの教育が大切だと思っている。そこも教育に十分含めていただいて、本当に楽しく学校に行っていただけのような、学習ばかりではなく人間力っていうそういったものを繋げていっていただきたいと思っている。

山崎町長 鏡野町スタイルっていうのが、学校であり環境であり社会であり、いい町という、そこになると思う。出る人と入る人と比べれば出る人の方が多いかもわからないし、生まれてくる人と亡くなる人と比べれば亡くなる人が多いので、相対的には少なくなっているが、少なくとも鏡野に出てくる、鏡野に残る、奥津から出てこられても鏡野に家を建てたと、そういう風な町になっていく。鏡野で子育てをしてよかったなあと思う親がおり、その子どもが育ち鏡野に帰ってくる、そういうのが一番良いので、その時のために手立てを今から講じておかなければいけないというところを皆さん方からお聞きしたい。

佐古委員 町長が言われた鏡野町らしい子どもってどんな子どもだろうかなっていうことをさっきから話を聞きながら思っている。富らしい子どもはイメージできるが、鏡野町らしい子どもいうイメージを皆さんどう思われているのか。みんなで作っていく、考えていく必要がある。

山崎町長 本当はすぐ近くにあると思うのですが。鏡野町にはよそにないものがたくさんある。湖があつたり溪流が色々あつたり、スキー場もあるし、広い農地もあるところもあつたり、この風景はよそにないものがある。いつも前を向いた考え、後ろを向くというか下を向く人よりは前を向く上を見る、そういう風な人が多い。それが豊かな鏡野町を支えていくし、人間をつくっていくし、鏡野らしさっていうのはそこではないかなと思う。そのためにひとつは町民アンケートをずっと繰り返しやっている。繰り返しやってきて評価もいただいている。交通手段についてもどうしたらいいかなというのをいつも真剣に考えていて、そのためには皆さん方の意見を1000人アンケートで毎回もらっ

て反省をしながらいい方向にいつている。

宗川委員

佐古先生が言われたことの答えになるかわからないが、下の子の時の保育で、子ども自身がありがとうとか、そういう言葉を言ってくれることがとても多い。保育環境でそういった言葉を先生たちが繋げてくださっているのではないかなと思ってとてもありがたい。富の人であり、上齋原の人であり、奥津の人であり、知った方が増えるっていうのは、それぞれの感謝の言葉とか声掛け。そういったことが保育の方に取り入れてくださっているっていうことが鏡野町のベースに今なっている、人間性っていう方向でありありがたいこと。教育の中にでも、困っている子があれば誰かが声を掛ける、困っている人も誰かが声を掛けてくれる、そういったものが鏡野町の中で、今先生方が繋げてきてくれていて、鏡野中学校がいい、いじめのない輪ができていいのかなど思っている。それぞれの地域も声掛け合っていかなきゃいけないと。声の掛け方っていうのも難しいですけど。そういったのも取り組んでくださっているかなと思う。

山崎町長

鏡野町が合併して最初に首長になったので思ったことだが、2つの町と2つの村の考え方でやるというのは困難。富は生活圏域が真庭市の一部にあるし、上齋原は病院とか買い物でも倉吉、三朝に行くこともある。鏡野サイドといえど津山に買い物とか病院というのがあり、奥津は苦田ダムで翻弄された町という部分も大分なくなった。それぞれ旧町村で有り様が違う。それぞれその町には行政の中心があったので、何かやろうとすればできる町を残しながら合併した。イベントもそれぞれのところにたくさんあったが、これを残してもらいたいというイベントだけを残して、行政がやっている。あとは地域でつくっていいこうというのは、上齋のふるさと祭りであったりする。鏡野町は少なくとも前向きな町であるし、上向きの町でもある。富では、公民館が旧中学校を改修しそこに移り、登美山荘が中華料理に変わった。それなりに頑張っている。本当にいい町だと思う。奥津でこの間 SEA TO SUMMIT をしたが、いいところですねという声を聴く。これからも4地域のそれぞれの魅力を再発見してまちづくりを進めていきたい。

武本室長

生涯学習課から来年度予算のことで話したいことがあるようなので説明します。

和田課長

予算に戻っていただきまして、生涯学習課関係だが、1点小さい額だが、ペスタロッツ館の中にパソコンの教室がある。そのパソコンが古くなっている。パソコンの講座を毎年やっているが、受講される方よりパソコンが古いのので、家にあるパソコンとは全然違うという意見がある。毎年行っている総合文化施設審議委員会、こちらの方からもパソコン更新してほしいということが毎回出ている。その更新を予算に上げさせていただきたい。台数が12台、20万くらいの予算で240万だが、入札をすれば多分半分程度に落ちるのではないかなということなので100万ちょっとの予算を上げさせていただきたいと思う。

山崎町長 いいことだったらどんどんやってほしい。何年くらい経っているのか。

年岡教育長 平成 15 年にここを建てた時に入れ替えせずそのままずっと使っている。

武本室長 ありがとうございます。それぞれの思いを今日は素直なところで話し合
えて、有意義な時間になったのではないかと思っています。結果が出るのはな
かなか目に見えにくいところもあります。これでいいっていうことも教育現
場は難しいところでもあります。今後もこうやって町長と教育委員会と意見
交換しながら子どもたちのために頑張っていきたいと思いますので今後とも
どうぞよろしく願いいたします。本日は大変ありがとうございました。